

日本の木の文化、優れた製品・技術を世界に広める「ウッドデザイン賞」 〜コンセプトブック発刊によせて〜

「ウッドデザイン賞」は、木材・木製品を利用する消費者が木の良さや価値を再発見できる製品・取組を顕彰し、森林・林業の活性化や木のある豊かな暮らしの実現を図る取組として、2015年度から始まり、3年目となる今年度も、幅広い業種・業態の方々から多くの応募を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

今年度の最優秀賞は、秋田杉など地域の木材を活用した秋田駅周辺施設のリニューアルプロジェクトでした。駅は、地域住民が日常利用する公共空間であり、また観光客を迎えるエントランスでもあります。民間事業者、行政、大学が地域と連携して、県産材のスギなどを使った「秋田らしさ」や、デザイン力で木の持つ「親しみやすさ」「心地よさ」などの特性を上手に引き出している取組であると思います。

このほかの受賞作品では、商業施設、金融施設や教育施設等において、木の持つ「高級感」「格好良さ」「癒やし」などの特性を引き出して、利用したくなる空間づくり、商品づくりを行っている取組や、木造の床遮音技術の開発など、今後の木材利用の拡大につながる技術・研究も多くみられました。

木の特性や効能を生かしたデザインや木材利用に関する技術開発・研究等は、多様な領域の事業者、設計者、デザイナー、研究機関、地域、生活者などが参画して、質や価格の面を含めて、消費者が現代のライフスタイルの中で期待することは何かを考えて形にしていくことが望まれます。また、2020年には東京オリンピック競技大会が開催され、訪日外国人の更なる増加が見込まれます。

農林水産省は、日本が培ってきた木の文化や優れた技術を活かした最新の木材利用を、国内だけでなく、世界に発信していきます。

最後になりますが、ウッドデザイン賞を通じて様々な連携が実現し、国内そして世界の人々の暮らしの中に木が当たり前に使われることを通じて、森林の整備・保全や森林資源の循環利用が促進され、林業の成長産業化と独自性のある地方創生が実現されることを期待しています。

平成29年12月
農林水産大臣 齋藤 健



はじめに

このたび、「ウッドデザインコンセプトブック2017」を刊行する運びとなりました。

第3回の開催となった今回は、さらに多様な視点、取組が見られ、素晴らしい作品が多かったように思います。

消費者目線での新たな木づかいの先進例が広がっていることを実感しています。

本誌ではウッドデザイン賞2017の受賞作品を全点収録するほか、審査委員のメッセージや広報活動のレポートなどを掲載しました。

受賞作品に秘められた開発者の思い、地域内の連携、木材の機能・効能を健康や癒しに活用するアイデアは、今後の木材利用において貴重なヒントになるものです。2017ではさらに、小売・流通からの木質化に対する付加価値の提案、SNSや情報ネットワークから消費者と森や木材との接点をつくる取組が増えてきたことも特徴です。

本誌に収録された多くの企業、組織、団体やデザイナー、クリエイター、技術者、そして地域が再び連携して、新たなウッドデザイン賞が生まれることを期待しています。

- 2 日本の木の文化、優れた製品・技術を世界に広める「ウッドデザイン賞」
- 4 審査委員からのメッセージ
- 6 ウッドデザイン賞2017実施概要
- 7 最優秀賞、優秀賞、奨励賞
- 21 入賞
- 62 索引
- 66 受賞後の展開・広報活動報告
- 68 過去のウッドデザイン賞の紹介
- 76 ウッドデザインサポート連絡会のご紹介
- 80 ウッドデザイン・パートナー・マークについて